

私は見た 現在の中国

中国で、スマートフォンを使った電子決済サービスやカメラによる顔認証システム等が急成長していることが日本のテレビでよく紹介されています。先日、中国に帰省した際に、日本ではあまり紹介されない、実際に体験した事や感じた事をご報告したいと思います。

帰省した私を迎えに来た親戚の子と一緒に駅地下の駐車場に行くと、その子が歩きながら、スマホで遠方に向かって何か撮影を始めました。不思議な行動に質問すると、「今、駐車料金を支払っています」と話してくれました。よく見ると駐車場の壁や柱に大きな QR コード案内が沢山貼ってあります、どこでもスマホで「ピッ」とスキャンするだけで、支払いは完了とのことでした。日本でも似たようなサービスがありますが、多くの QR コード看板は出入口にしか設置してありません。少しの工夫だけで、大変便利になり、とても良いアイデアだと思いました。



駐車場内の大きな QR コード案内



停車 3 分、超過は即撮影、減点か罰金

別の日、車で出かけた際に、運転している甥のスマホに SNS 着信の音がしました。助手席に座っている姪はスマホを見て、“ヤバイことしちゃったね”と言。実は直前に間違っって一方通行の道を逆走したようです。それをカメラに撮られて、警察からの罰金通知が SNS で来たのでした。悔しい気持ちの一方、なんと効率的なことだと感心しました。車のナンバーとスマホ番号にリンクし、駅や空港での送り迎えの個人用車の駐車時間 3 分以内、高速等の有料道路の管理は完全に無人化になっています。少子高齢化で人手が不足している日本でも早く実現できたらと思います。

QR コードによるキャッシュレス化に伴う、画像処理技術も急成長しています。ネットショッピングは既に普及し、有名なアリババのネットショッピング淘宝网（タオバオワン）の商品探しは文字だけではなく、名前を知らない商品の写真でも簡単に検索できます。最近アマゾンも画像検索できるようになりましたが、試してみると、淘宝网はアマゾンより遥かに優秀です。街中にはあちこちにカメラが設置されていて、信号無視や日本で問題になっているあおり運転、交通違反だけでなく、犯罪も激減、より安全安心な生活ができるようになったと、心から感じました。

そして、これは嘘のような実話ですが、中国で大変人気のあるロック歌手のコンサート会場で、顔認証システムにより、指名手配の容疑者や逃亡犯がなんと数十人も逮捕されることになりました。ネット上でその歌手は「歌の神様」の愛称から「犯罪逃亡者天敵」に変わりました。日本でも、もし防犯カメラがもっと沢山あれば、何週間も大勢の警察官が出動しなくても、もっと素早く簡単に犯人が捕まるのではと思います。



中国でのキャッシュレス決済は日本のテレビ番組でよく紹介されていますが、私も実際に経験しました。小さい店なら、現金払いも大丈夫だと思いましたが、小さなお店こそ手間を考え、キャッシュレス一本にして、現金併用にしない店が多いようです。幸い優しい人に恵まれ、私は持っていた現金を渡して、その方が代わりにスマホ決済してくれました。バスに乗車の際はお釣りの用意がないために、幸運なことに支払いを免除されました。(笑) 日本でも〇〇ペイが20種類以上あり、キャッシュレス戦国時代と言われています。多くの人と同様に、私もそのセキュリティ対策にはまだ不安があり、特にセブン・ペイ使用中止等一連の出来事でスマホ決済にはなかなか踏み出せません。高齢者はさらに抵抗感が強いので東京オリンピックまでには普及できないと心配する人が多いですが、「高齢者の間でキャッシュレス決済が予想外に広がっている。70歳代以上の電子マネー平均利用額は直近5年間で87%増え、伸び率は全世代の平均(58%)を上回る。」という新聞記事を読んだことがあります。中国にいる姉は、数年前には私と同様スマホ決済に対し随分躊躇していたのですが、いつの間にかスイスイ使っています、やはり便利さは不安に勝ったそうです。やればできるって本当ですね。(笑) 常にスマホを持ち歩く中国人にとって、スマホはすでに「財布」になっています。2年前に私がイタリア旅行で、中国の親戚にお土産として買ったブランド財布も今は誰も使いません(笑)。



“枝いっぱいの子”のようなカメラ

2019年10月28日、中国ではデジタル人民元「DCEP」の発行が正式に発表され、これは世界初の中央銀行発行デジタル通貨となります。今まで民間企業がリードしているキャッシュレス構造も併せて大きく変動する可能性もあるかもしれません。日本では10月の消費税率引き上げ以降、各社の〇〇ペイの利用者が激増、QR決済はキャッシュレス社会の起爆剤になるでしょう。キャッシュレス決済が良いか悪いか、カメラはプライバシーの侵害か犯罪阻止になるかの議論反論の中で、あなたなら安心安全と個人情報漏れ、どちらを選びますか？ いずれ、時代は間違いなく進化し続けるでしょう。

不動産業界では、3D画像や動画によるバーチャルルームの案内、ネットショッピングの信用点数による申込審査(中国では「胡麻信用」という個人信用評価システム)、ネットでの契約、スマホ決済やSNSによる滞納の督促、防犯カメラによるクレーム対応、クラウドで報告書閲覧などへ変化していく事でしょう。私達アーバン企画開発は、AIによる資産運営の提案などに取り組むことによって、オーナー様の財産を守り、より良いサービスを提供できると期待しています。少子高齢化の日本では労働生産率が低いと言われていますが、これを改善するにはAIとネット技術を駆使することが重要な手段になります。一步先を走る中国に学び、日本に合ったイノベーションが急務だと思います。